



Plan Do See

「東ロボくん」からのメッセージ

朝日町教育委員会 教育長 木村 博明

「東ロボくん、東大合格を断念。苦手科目を克服できず！」これは、某新聞の見出しである。平成28年11月、人工知能（AI）で東京大学合格を目指していた「東ロボくん」のセンター試験模試の結果がマスコミを賑わせた。

「ロボットは東大に入れるか」プロジェクトは、2011年にスタートした。同プロジェクトでは、大学入試問題を指標にAIの進化を客観的に測ることを目的とし、東大の入試を突破できる人工頭脳の開発を目指してきた。模擬試験の結果によると国公立大学は23校、私立大学は512校が合格80%以上という判定が出たものの、東京大学は不合格の判定だったという。

AIの弱点は「意味の理解」

偏差値は、5教科総合で57、数学57、世界史66、物理59と知識や論理を扱う科目で好成績を達成した。その一方で、国語49や英語（リスニング）36と読解力を必要とする科目では成績が伸びなかったという。

「ロボットは東大に入れるか」プロジェクトディレクターの新井紀子教授（国立情報学研究所）によると、「東ロボくん」は問題を解き、答えも出すが、文章を読んで解いているわけではない。コンピュータに使えるのは、論理と確率と統計、膨大な検索を通じて、確率的にありそうなことを選び出しているのだという。「読めない」が「解ける」というのは、こんなからくりがあるからなのだ。

コンピュータは文章を読めない。では子供たちは「読めて」いるのか？



新井先生によると全国2万5千人を対象とした読解力調査では、中学校卒業段階で約3割が教科書の内容を読み取れておらず、また高校生の半数以上が教科書の記述の意味が理解できていないことが明らかになったという。また、それを裏付けるかのように、2015年のOECD（72カ国地域の15歳を対象）学力到達度調査（略称PISA）によると、日本の順位は、「科学的応用力」は前回の12年の4位から2位、「数学的応用力」は、7位から5位と順位を上げたが、「読解力」は、4位から8位に落ち込んだ。新井先生も「文章の意味を理解出来ない東ロボよりも、得点の低い高校生がいるのは、どういうことなのだろう」と不安を隠せない。

さて、昨今のグローバル化、少子高齢化、情報化、ロボット化、コンピュータの発達、AIの登場等、私たちを取り巻く社会環境が大きく変化してきた。そして、これまで経験したことのない厳しい時代を迎える中、新しい時代を生きていく上で必要となる資質や能力も変わろうとしている。2020年度（オリンピックイヤー）から小学校から順次、中学校、高等学校と新学習指導要領が全面実施されるが、将来の予測が難しい社会を生き抜く資質や能力（「思考力、判断力、表現力等」）を育むことが、今回の改訂の重要な柱となっている。

人間がAIよりも優位性を持つ資質・能力を身につけることが、これからの時代を生き抜いていくための処方箋となる。「東ロボくん」からのメッセージとして受け止めた。

「新たな気持ちで」

朝日中学校 教頭 梅澤 健一

3年ぶりに朝日中学校へ勤務させていただくことになりました。川の流れと同じように、校舎は変わっていませんが、生徒や教職員の方々が替わり、期待と不安が入り交じった気持ちでした。

4月に学校へ来てみると、部活動をしている生徒が元気よく挨拶をしてくれ、ほっとしたと同時に、よき伝統の一つは受け継がれていると感心しました。そして、始業式、挨拶を聞く生徒の姿勢や視線、体育館に響く大きな歌声が、私の気持ちを高ぶらせてくれました。また、朝日中学校のスローガン「一生懸命はかっこいい」は、とてもいい言葉だとつくづく思いますし、それを実践している生徒の素直さも感じています。



以前勤務させていただいていたこともあり、かつての教え子が保護者になっていたり、お世話になった地域の方々とも久しぶりお会いして声をかけていただいたり、改めて地域の温かさを感じています。地域の宝である生徒を、温かくも冷静に見つめていきたいと考えています。

「朝日中学校に赴任して」

朝日中学校 伊井 昌彦

25年間にわたる高等学校での教員生活を経て、この4月から朝日中学校に着任いたしました。中学での勤務は初めてですが、四季折々の自然きらめくこの朝日町でご縁をいただいたことに喜びを感じています。

私は、今まで国語教師として生徒たちに言葉の使い方や文章の読み方、まとめ方を教えてきました。言葉や文章を使いこなす能力は、人間がよりよく他者や世界とつながるために必要な能力ですが、高等学校での国語科の学習では、大学受験に特化したテクニックを鍛えることだけに重点が置かれがちです。



私は、国語科の学習をサポートする一手段として、県内外でディベート指導に従事してきました。一つのテーマ（論題）について賛成側と反対側に分かれて議論を交わし合うディベートでは、対戦相手の主張を正確に理解して反論することが求められます。知識や論理を駆使して自分の意見を伝えるだけでなく、他者の考えや価値観を包み込んでいくことができるのです。

中学生は、対人関係づくりを身につける重要な時期です。微力ではありますが、そうした経験をいかし生徒たちのコミュニケーション能力の育成に貢献できればと思います。

今年度の異動で、7年ぶりに朝日町に養護教諭として赴任しました。春の保健室の様子を紹介したいと思います。

4月は、進級による新しい環境での適度な緊張感からか、けが人や体調不良者は少なく落ち着いています。5月は、外での活動が増えたり、廊下を走ったりしてけがをする子が増えます。また、「頭が痛いです。」「お腹が痛いです。」と訴える子も目立ってきて、来室者が徐々に増えてきます。このような状況になると、次々に来室者が来て、子供たちの話を十分聞くことができないことがあります。

しかし、さみさと小学校には、困った状況になると、すぐに保健室に駆けつけてくださる先生や日頃からサポートして下さる先生方がたくさんおられます。今、保健室は、先生方に助けられながら成り立っています。

私は、今後全校281名の子供たちの顔と名前をできるだけ早く覚えて、子供たちの笑顔を支えていきたいです。そのために、私自身がいつも元気で笑顔を絶やさない養護教諭でありたいと思います。



” 学校生活から学んだこと ”

昨年度、富山県立にいかわ総合支援学校で勤務させていただいた。そこでは「繰り返し巻き返し」という言葉をよく耳にした。



髪や爪を切ることを「痛い。」と怖がるAさん。養護教諭と相談し、自立活動の時間に爪切り練習を行うことにした。初めは、爪は切っても痛くないことが分かるように私が爪を浅く切ることを繰り返した。次に、伸びた爪の写真を貼った指サックを本人の指に被せ、写真の爪を短く切ることをした。「怖い、痛い。」が、何回もやるうちに「やってみよう。」と自分で爪切りを持つようになった。写真の爪は、深爪になったり、指まで切れたりもした。繰り返し巻き返しの練習により、3学期には「爪切り練習したいです。」と自分から言うま

でになった。でも、実際の爪は伸びていてもそのまま・・・。

4月下旬、元同僚から「Aさんが家で爪切りをしてくれました！」と報告があった。1年かけて、こつこつと続けてきたことが実を結び、Aさんの力となったことをとてもうれしく思った。先日、Aさんに会ったときには「自分で爪切った！先生と練習したね！」と笑顔で話してくれた。

今すぐの成果は見えていなくとも、「繰り返し巻き返し」行うことの大切さを実感したAさんとの爪切りだった。

学びつづける教師であるために～5月の研修の概要・感想～

小中生徒指導研修会

参加者16名

日時 5月31日(木) 場所 朝日中学校 1年各教室・会議室
内容 中学1年生の参観授業、情報交換会

中学校1年生の3クラスの授業を参観した後、「中1ギャップを解消するためには」という視点で、新1年生の現状と小中の連携について情報交換、意見交換を行いました。



(感想から)

- ・ 授業を参観させていただきました。小学校と雰囲気の違いの違う授業の中で、子供たちの成長を間近で見ることができ、とても感心いたしました。
- ・ 中学校1年生の立派な姿を見ることができ、とてもうれしかったです。特に「落ち着いている」という言葉を聞いて安心いたしました。中学校の先生方の指導のおかげで、子供たちが生活に慣れてきつつあるのかなあと感じました。
- ・ 支援級において、学習面・健康面で個別に十分な配慮をいただいていることが分かり、とても安心しました。
- ・ 小学校から中学校へのスムーズな移行については、やはり今回のような小中の情報交換がとても大切であると感じました。子供の本質的な部分は、大きく変わらないと思うので、これまでの指導の経緯等を伝えていくことが大切だと思います。
- ・ 今後も、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を活用した効果的な指導・支援を進めてほしいと思います。
- ・ 通常級にも、個別の学習支援が必要な生徒が多くいると思います。中学の学習レベルが高くなる中、淡々と授業が進むと付いていけなくなる生徒が出てくると思います。これからも、個別の配慮をお願いしたいです。

主なセンターの事業(6月～9月)

センター運営委員・調査員

(日付)	(事業名)
6月 6日(水)	理科教育講座入門コース(入善)
6月 7日(木)	研究主任会
6月 8日(金)	■特別支援教育研修会
6月13日(水)	小中高生徒指導連絡協議会
6月20日(水)	■道徳研修会
6月21日(木)	児童生徒作品展実行委員会
6月22日(金)	■小中教育講演会 講師 北田 佳子先生(埼玉大)
6月27日(水)	■外国語活動研修会
6月30日(土)	魚津地区理科自由研究
～7月8日(日)	発明くふう参考展
7月 5日(木)	学力向上推進委員会
7月10日(火)	郷土教育教材開発研究調査員会
7月11日(水)	情報教育研究調査員会
7月26日(木)	■生徒指導に関する講演会 講師 竹内 和雄先生(兵庫県立大)
8月 1日(水)	■外国語活動に関する講演会 講師 粕谷 恭子先生(東京学芸大)
8月 3日(金)	■情報教育研修会(午前・午後)
8月 6日(月)	■学力向上プログラム研修会 講師 加藤 宣行先生(筑波大附属小)
8月 7日(火)	■授業力アップ研修会(理科実験講座)
8月 9日(木)	■郷土を学ぶ研修会(現地学習会)
8月23日(木)	■授業力アップ研修会(仲間に学ぶ) 講師 水島真寿美先生(あさひ野)
8月24日(金)	■学校教育運営研修会 講師 九里 文子氏(鹿嶋神社宮司)
	■小中高教育講演会 講師 伊東潤一郎氏(株アイティオ)
8月27日(月)	■道徳に関する講演会 講師 柴原 弘志先生(京都産業大)
(2学期)	
9月26日(水)	学力向上推進委員会
9月29日(土)	児童生徒作品展
～30日(日)	

※ ■ の項目は研修会です

□ 朝日町教育センター運営委員

校長会	代表	松原	隆志
小教研	代表	金山	住恵
小中学校	代表	佐竹	隆太
教頭会	代表	内山	真之
教務主任会	代表	能登	千春

□ 情報教育研究調査員

さみさと小学校	内山	真之(委員長)
あさひ野小学校	兵庫	秀典
さみさと小学校	松井	和貴子
さみさと小学校	吉島	大貴
朝日中学校	廣川	平
朝日中学校	岩崎	將展
朝日中学校	中西	勇太

□ 郷土教育教材開発研究調査員

あさひ野小学校	長谷川	互(委員長)
あさひ野小学校	山下	雄己
さみさと小学校	上野	裕美
さみさと小学校	中嶋	裕也
朝日中学校	井田	誠

□ 外国語活動推進委員

あさひ野小学校	長谷川	互(委員長)
あさひ野小学校	水島	真寿美
さみさと小学校	鍋嶋	祥平
朝日中学校	米田	歩
朝日中学校	橘	紀子

□ 学力向上推進委員

朝日中学校	梅澤	健一(委員長)
あさひ野小学校	兵庫	秀典
あさひ野小学校	上嶋	早織
さみさと小学校	飯田	真由美
さみさと小学校	太田	浩二
さみさと小学校	高澤	伸治
朝日中学校	伊井	昌彦
朝日中学校	宮島	誠
朝日中学校	寺田	雄一郎

今夏の必読・必見～「忙中閑あり」

慌ただしい年度初めも終わり、少し学級も授業も軌道に乗ってきた季節ではないでしょうか。それでも、目の前の仕事に追われる毎日だとは思いますが、忙しい時だからこそ時間を見つけて、読書で心の栄養を蓄えませんか。

小・中学校 月刊誌 「児童心理」

発行 金子書房



インターネットへの依存は、現在大きな社会問題となっています。

今月号は、ゲーム障害やラインの問題の背景にあるものは何か。児童生徒の生活習慣が安定し、問題を解決に導くためには、学校や家庭がどのように関わっていくとよいのかについて、様々な角度から提言されています。一見の価値有り。

小・中学校 月刊誌 「月刊 生徒指導」

発行 学事出版株式会社



今月号は、生徒指導の初期対応について特集されています。「いざこざ」と「トラブル」の違いに着目し、根本的な解決に向けて、教師はどう対応したらよいのか。初期対応とその言動の背景にある「わけ」に取り組むことの大切さを事例を挙げながら詳しく説明しています。今一度生徒指導の原点を確かめられる一冊です。

小・中学校 月刊誌 「総合教育技術」

発行 小学館



今月号は、「考え議論する道徳」の特集。教科化に伴う道徳科の記述評価について永田氏の「8つの記述ポイント」は、大変分かりやすいです。田沼氏の「パッケージ型ユニット」による授業づくりも参考になりますよ。

今年度8月に本町にお越しいただく加藤宣行先生の提言も載っています。ぜひご覧ください。

小・中学校 月刊誌 「特別支援教育研究」

発行 東洋館出版社



特別支援教育における「各教科等に合わせた指導」を成り立たせるための性質について述べられた特集は、とても興味深い内容ですよ。教師は「児童生徒が学校生活の主体者である。」という意識を常にもち、「学びをつなぎ合わせること」「生活の質を高めること」に重点を置いて指導することで効果が得られることが述べられています。

編集後記

最近、不審者情報が多数報告されている。世間が敏感に反応しているようだ。これも、新潟で起こった踏切事件の影響だろうか。でも、根本的な原因はそうではないと考える。

私は、コミュニケーション力の低下が原因だと思う。相手が不快・不審に感じる関わり方をしてしまう。情報だけが飛び交い、目で見て、肌で感じるアンテナが磨かれていない。

だからこそ、今「コミュニケーション」がとても重要なのだ。人と対話し、関わり合い、感情を伝え合うことで習得する力。この力こそ、学校で磨くべき大切な「生きる力（未来を切り開く力）」だと改めて感じている。

発行：朝日町教育センター

〒939-0743

富山県下新川郡朝日町道下1053-1

TEL (0765) 83-0279

FAX (0765) 83-0279

E-mail asahi-ec@tym.ed.jp

Webサイト <http://www.asahi-c.tym.ed.jp/>